

若い人たちへの雑感

「ちよいワルオヤジの古代史エッセー」を連載している古代史好きな市井のひとりとして、とりとめもない独り言を綴ってみよう。

・新聞をひらき飛び込む「全人代閉幕、毛路線に回帰」「米銀行相次ぐ破綻」「北が農村復興に軍投入」などの見出し——まるで「バック・トゥ・ザ・フューチャー」のように時計の針が過去に戻り、今は一体いつなのかと驚いてしまう。

・45 年間も働いてきたのだから、もうお役御免。好きな古代史を楽しんでも許されるだろうと、旅に出かけ、神社・古墳などを訪れ、それなりに楽しんでいるが、何が言いたいのかよく分らぬ由緒書や難しい漢字ばかりの読みづらい看板などに遭遇すると、旅行気分も吹き飛び、妙に腹が立ってくる。自分の無知を棚に上げて怒るのも年のせいかな。

・そういえば、長い会社人生ではいつも団塊の世代が上司だった。現役の時は、みんな品質・技術・コストで頭が一杯で、さらには世界への進出も始まり、外国語や現地の法律・習慣などの勉強に追いまぐられ、日本の歴史どころではなかった。

会社の進出先も、アメリカからヨーロッパそして東アジアへと変わって行き、果ては中国での現地生産に行きつき、最先端、最新鋭の設備を送ることになったが、その当時の中国はもちろん後進国で、特許技術や先端技術の違法コピーなどを懸念していた。まして、20 年後に中国が日本を越えて大きく成長するなどとは夢にも思っていなかった。

・会社勤めを終え、自由な身となり、好きな歴史を楽しむ時間には恵まれたものの、いかんせん基礎体力がない。長年、歴史を研究してきた方であれば、豊富な知識と経験によって論の組み立てができる。

ところが、不肖私の場合は、会社勤めを終えてこの世界に参入したが故、あちこちで壁にぶち当たってしまう。

私の会社勤めの間に起きた考古学上の大発見や文献史料などについて、リアルに経験していない弱みである。

例えて言うなら、私が 100 のピースで古代史像を見ていたとしても、1000 ピースのプロにはまったく及ばない。見ている世界がまったく違う。

とはいえ、理系の古代史好きがたくさん現れたら、現在の文科系主流とは違うアプローチで歴史

構築が進展するのではと考えている。

造船技術とか金属加工とか鉱脈探査とか地質、地形、海流、気象の専門家とか、それと軍事。軍事専門家のアプローチが言も論も分かりやすく納得がいく場合も少なくない。

・九州国立博物館で「ポンペイ展」と「加耶展」を見てきた。

ある人から「埋没したのはいつ頃のことか」と聞かれたので、「漢委奴国王の頃だよ」と言ったら怪訝な顔をされたが、79年の噴火といたらそうなる。

ポンペイの人口1万人で、劇場も闘技場も浴場もあって、古代ローマの植民市というが、こんなにも栄えていたのか。弥生遺跡とずいぶん違う。

ブロンズや大理石の像も凄いが、「ネコとカモ」や「イセエビとタコの戦い」のモザイク画の方が面白い。強烈な支配者がいるときに文化は成熟するのだろうか。

邪馬台国に7万戸30万人もいたとしたら、不謹慎な事を言うと叱られそうだが、格闘技のリングとか競艇の発着場とか遊びの道具とか面白い遺跡が出てきてもよさそうなのに、弥生遺跡は素人にはあまり面白くない。

[ネコとカモは若沖の超絶技法に匹敵][イセエビとタコの戦いは北斎漫画と類似]みたいな好奇心や探求心がそそられるような特別揭示物があつたらファンはもっと増えるのに。遊び心を許さない雰囲気があるのかな。

・「加耶展」は楽しみにしていただけに落胆が大きかった。遺物がちょこんと行儀よく展示されているだけだった。百済博物館や大邱博物館や金海博物館で見たようなものが置いてあるだけだった。“伽耶諸国と倭国のダイナミズムな交流史”や“鉄の国”を期待したが残念であった。——「宿題を親がつくった標本箱」のような感じ。

・私たちは将棋の藤井聡太君や野球の大谷翔平君を見てしまった。彼らはその世界を変えてしまった。AIの究極の一手やバレルゾーン打法とか、おじさんには脳も体力も残っていない。

歴史の分野とて新たな手法で構築しなおすことができると思う。

若い世代に「歴史って楽しいよ」「古代は解明することが山のように残っているよ」って伝えたい。歴史の世界の藤井聡太君や大谷翔平君の登場を心から望みたい。

・唐突だが、アイデアがある。念のため、イデオロギーは関係ない。

今度の紙幣の肖像は渋沢栄一と津田梅子と北里柴三郎になるそうだが、神功皇后と武内宿禰、藤原鎌足に戻してはどうか？

人間は毎日、毎日、目にするものに愛着を覚える。お札じゃなくて肖像に！親も子も彼らを見直し、きっと日本の成り立ちに興味を持つ若者も増えると思う。

若い人たちが興味を持つ機会、話題、材料を提供するのも、高齢者たる我々の役割である。

・特に理系頭を持つ若い君たちに日本の古代に興味をもって欲しい。

「日本人の起源」や「邪馬台国論」や「記紀の世界」を“理系が語る歴史大会“みたいなものが見られたら、想像するだけでワクワクする。

ロケットやアインシュタイン、動物記などに熱狂したのは子供の頃であった。

どうして神話の時代に熱狂しないのか不思議である。

古代史ネットワークに参加する“ちょいワルオヤジ”は、若い君たちの突破力に期待している。